

2020年3月26日  
株式会社シーエス・ワンテン  
株式会社日本ケーブルテレビジョン

2019年度 CNNj 番組審議会議事録（※書面開催）

1. 審議委員総数 8名

レポート提出委員数 8名

（委員）

委員長 小池 生夫（慶應義塾大学および明海大学名誉教授・言語学博士）  
委員 大宅 映子（評論家）  
委員 石川 次郎（編集者（株）ジェイアイ社長）  
委員 吉永 みち子（ノンフィクション作家）  
委員 小西 克哉（キャスター）  
委員 国府 弘子（ピアニスト・作編曲家）  
委員 稲生 衣代（青山学院大学教授）  
委員 パトリック・ハーラン（パットン）（タレント）

2. 審議番組

（1）ファリード・ザカリア GPS 特番 白人至上主義問題の現状

**State of Hate :The Explosion of White Supremacy**

放送日時：2020年2月14日（金）23時-24時（45分）

**アメリカで最も信頼できる論客の一人で、CNN 週末のニュース解説番組「GPS」の司会を務めるファリード・ザカリア。近年欧米で台頭著しい暴力的な白人至上主義。その実態、拡大の背景を検証。**

<委員意見>

- \*ザカリアとインタビュー相手である学者の激しい言い合いは迫力があつたが、怖かった。能力のある者は人種・肌の色など関係ないといえるアメリカになったと思ったのに、一向に変わっていなかった。
- \*大変興味深く重い内容だ。黄色人の自分も、白人至上主義者から見れば非白人、遺伝的に劣った人種となるので、他人事ではないアメリカの現状が重く伝わってきた。時間軸が行ったり来たりするので、日本語字幕だったので理解できたが、同時通訳だったら理解が追い付かなかつたと思う。

- \* 簡潔に訳された日本語字幕を見ながら視聴すると見ごたえが増す。米国外で暮らす視聴者が現状を理解するのにふさわしい内容。
- \* 豊富な映像と説明で中身の濃い素晴らしいレポートだった。
- \* 壮絶な白人至上主義を守るといふ、日本には無い社会の問題を、ドキュメンタリで描きながら世界史的な根源のメカニズムを巨視的にダイナミックに描く。人間の肌色の問題がかくも大きな問題になる要因であることを認識させる説得力のある番組だった。
- \* CNNは「STATE PF HATE」という実に上手いタイトルをつけると思う。宿痾である人種問題をこれだけ多方面から鋭く告発できるCNNのニュース番組は凄いと痛感した。過激なコメントを引き出すアンカーマンとしての力量にあらためて感服した。
- \* 世界有数の超人ジャーナリストであるザカリア。博学の知識と群を抜いた分析力をもって真正面から切り込む取材力は実にすさまじい。アメリカ国民の命、国の在り方に深くかかわっている問題なので、大げさにでも警鐘を鳴らすべきだと感じる。とても勉強になる内容だ。
- \* 国際学と歴史学の視点をフルに動員して構成している秀作である。白人至上主義現象を単なるトランプ政権に付随する過度的現象とみるのではなく、より広範な構造的現象として描いている。数百年かけて近代が作った人権主義的優劣意識は、片手間の政策や対策では手に負えないという悲壮感が伝わってくる。

(2) 特別番組「メラニア・トランプ大統領夫人の素顔」

**CNN Special Report: Woman of Mystery: Melania Trump**

放送日時：2019年6月15日(土) 10時-11時 (60分)

**元モデルで、史上2人目の外国出身の米大統領夫人、メラニア・トランプ。CNN特別取材班が側近やファッション評論家らにインタビュー。彼女の知られざる素顔に迫る**

<委員意見>

- \* CNNがわざわざ取り上げるのだから、メラニアへの直接インタビューがあるに違いないと期待したが、無くてがっかりした。日本語訳が聞き取りづらい。同時通訳にこだわらなくても良いと思う。
- \* メラニアという女性がどのような人なのか、結局よく分からなかった。日本のファーストレディと比較して見ると、アメリカの視聴者とは違う視点で見られて、面白さがあった。
- \* 関係者やジャーナリストの証言を積み重ねて様々な視点からアプローチしたものの、結局は大統領夫人の真の姿がよく分からなかった。専門家の新鮮な分析を見ていくと、メラニアが積極的に表舞台に出ず、プライバシーを大切にしていることが推察され、何故、謎に包まれているかが理解できた。
- \* ごく個人的な運命であの立場をこなしているにしても、トランプ大統領よりも扇動的ではなく、ある種の冷静な責任感を感じた。

- \*アンチ・トランプの急先鋒である CNN がスペシャル・レポートでメラニアを取り上げると聞き、好奇心を刺激されたが、結果は期待外れだった。原因は同時通訳にある。代々のファーストレディに比べて「メラニアには」リソース“が無い”とストレートなコメントだったが、この場合の”resource”は“資質・能力”という日本語にしてもらいたかった。  
日本語字幕の方が理解しやすく、しっかりと見る気分になったので、今回のようなスペシャル・レポートは是非とも日本語字幕でお願いしたい。
- \*メラニア夫人の内部に入って知られざる大統領夫人の活動や考え方をテレビ画面に展開するという珍しい番組だ。日本の首相夫人をまともにインタビューすることが無いので、アメリカの開かれた CNN 放送を見て、とても興味深く、満足した。日本ではできない放送だ。本人のインタビューがあればもっと良かった。
- \*公人としての働き方だけではなく、個人としての性格や考え方を取り上げ、歴代の大統領夫人とも照らしながら、メラニアの活動への賛否を両方紹介する、バランスのとれた伝え方だと感じる。全体的に高く評価できる番組である。
- \*大統領補佐官や大統領夫人執務室報道官等の「公式情報」と Bruni 記者等の大胆な「メラニア宮廷革命」論的な解釈が交差する形で話が展開していく。また、トランプ大統領とは逆のベクトルを示す数々の「抵抗」には、メラニアの一貫したメディアメッセージがある。

### 3 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

ローカライズの手法について、引き続き検討を重ねる

### 4. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2020年5月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上